

山口大学における快適な生活のための キャンパス調査

福田 隆眞

A Research on Campus Life Amenities in Yamaguchi University

FUKUDA Takamasa

(Received December, 7 2009)

キーワード：デザイン、環境、大学キャンパス

はじめに

筆者は教育学部美術教育のデザインの授業において、身近な環境をテーマとして「山口大学通りの景観」「一の坂川の景観」などについて景観の調査を行って来た。(注1)

本稿は美術教育の授業の一環であるデザイン学習によって実施した調査で、山口大学吉田キャンパスの環境、施設、設備、使用者のマナーなどについて述べたものである。調査は受講生である4年生が学生の視点で行った。調査期間は2009年6～8月であり、その後改善された項目もすでに見られる。

(1) 調査の目的

山口大学は改修に伴いキャンパスの外観が変わったり、新たな施設ができたりと、いろいろと変化してきた。また本年度も、大規模な改装工事や増設が計画され、大学は新しく生まれ変わろうとしている。そうした状況において、キャンパスの外観だけではなく、実際の使用感、美観、そして大学生活におけるモラルなどについて把握するために、学生の感覚で調査を行った。

大学は教職員と学生が共同生活をおこなっており、全ての人が快適に生活できることが望ましく、学生は4年間をより快適な学びの時間にしたいと考えている。この調査は2009年度の前期「デザインⅣ」の授業を通して、山口大学美術教育選修第36期生(注2)が、2009年6月～8月に山口大学吉田キャンパスを実際に調査し、問題点を提起するとともにそれらの改善方法を話し合い、その結果に考察を加えたものである。

(2) 調査方法

大学生活を送る中で、普段から気になっていることや、意識して見てみると疑問に思うところなどを、写真に撮ったり、現地に行って詳しく様子を調べたりして調査した。その際には、教育学部の学生だけでなくできるだけ多くの他学部の学生の意見も聴取し、調査

の幅を広げた。また、この調査では、精神面から大学をみた『ソフト』、施設や設備等物
質面からみた『ハード』の2つの観点を意識している。具体的には、大学の環境、施設、
設備、広報、大学の気風・システム、マナーに分けて調査した。そしてその写真や意見を
基に、改善してほしい所の問題点を提起し、それらの解決方法を検討し、報告書とした。

(3) 報告の見方

報告は、●山口大学の良いところ、▲山口大学の改善してほしいところ、★上記に対す
る改善策と、分けてまとめた。

1. 吉田キャンパスの環境

●緑が多く、景色が美しい。(写真1)

- ・キャンパス内は木が至る所に植えられ、公園を思わせる。
- ・池の周囲は木や花がたくさん植えられているだけではなく、ベンチも設置され、のど
かな気持ちになれる。癒される。

●共通教育棟などの各所が改修工事され、景観が美化された。

●細かなところに遊び心が見られる。(写真2)

●スーパーマーケット、コンビニエンスストアが近い。

●大学付近で蛍が見られる。

▲大学周辺に娯楽施設や商店が少ない。

▲南門の見通しが悪く、通行量が多い。

★信号機があると、歩行者や自転車、そして車が安全に通行できる。

▲正門前・テニスコート前の信号が変わるのが遅い・また青の時間が短い。

- ・信号を守らない学生が出てくる原因になりうる。



写真1 道路脇には並木が並ぶ。

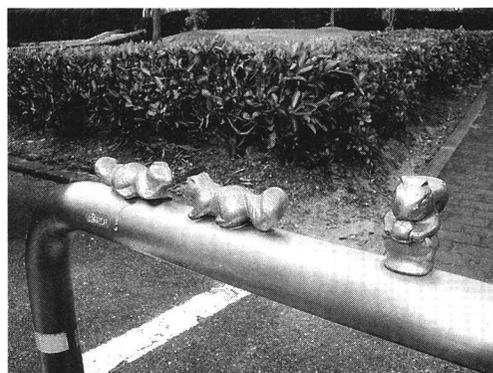


写真2 ポールにリスの飾りがある。

2. キャンパス内の施設

2-1 施設の存在

●売店が充実している。

- ・商品の種類が豊富である。

- ・教育学部の売店の横のスペースは、冷暖房が完備し、くつろげる空間になっている。
- ・売店が多く、研究室や学部等から近い場所にある。
- 諸施設が学生の助けになっている。
 - ・食堂（ポーノ、きらら）、郵貯銀行、グラウンド、体育館、図書館、国際交流会館、駐車場、床屋などが設置され、教職員、学生の利便性を図っている。
- 無料で相談できる施設が沢山ある。
 - ・保健管理センター、情報ラウンジなど。
- 休憩所が豊富にある。(写真3-1、3-2)
 - ・お互い反発することもなく、同じ山大の中に調和して溶けこんでいる。
 - ・場所によって雰囲気が違うので面白い。
- 様々な研究施設があり、学生の勉学を助けている。
 - ・東亜経済研究所、経済学部のある商品資料館など。
 - ・大学内で貴重な資料を見ることができるので有益である。
 - ・学生が自分の専攻する分野を勉強するための設備、資料が比較的豊富に備わっており勉学の助けとなっている。
- ▲芸術関係の施設が少ない。
 - ・ガラス細工などの特色のある施設やギャラリーなどが設置されるとより豊かなキャンパスライフを送ることができる。

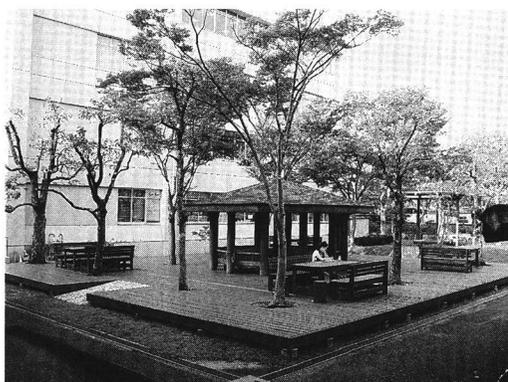


写真3-1 人文学部はカントリー風。

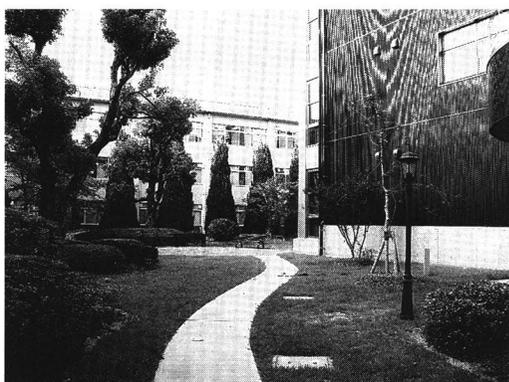


写真3-2 経済学部はモダンな雰囲気。

2-2 設計

- 改修工事された建物は室内景観も美化され綺麗になった。
 - ・綺麗になることにより快適な生活空間となると同時に、耐震強度も安心できる。
- 各学部の建物に特色がある。
 - ・経済学部は都会的。理学・農学部は壁が白く病院のようである。
- ▲教育学部の建物がいろいろと不便。(※他の建物にも当てはまる可能性もある)
 - ・日中でも暗い。掲示板が見えない。
 - ★間接照明で1つの明かりを上手に使う。
 - ・夏暑くて、冬寒い。
 - ・ドアが外開きなので、廊下を歩いている人に当たる。
 - ・男子トイレが開放的すぎる。

- ★ドアの設置。
- ・昼休みの売店が人で混雑し、狭い。
 - ★売店を2店にする。
- ・床が汚い。汚れやすいタイルになっている。
- ・室外機が危険な設置をされている。（写真4）
 - ★強度がしっかりとした、室外機よりも背の高い柵付きの足場にする。
- ・階段が滑りやすい。滑り止めが無く、壊れているのも放置されている。
 - ★これらのことは改修工事で改善されることを期待する。しかし業者の人に任せっきりではそのままになってしまうこともあるので、日常的に広く教職員、学生の意見を聞く機会をつくり、状況の把握が必要である。
- ▲教育学部の駐輪場には段差があるため、自転車が止めにくい。（※工事開始前）
- ▲駐車場が狭い。
 - ・駐車間隔が狭いため、ドアが開けにくい状況となっている。
 - ・スペース以上の車が利用している。
 - ★今建設中の駐車場によって、駐車スペースが1.5～2倍になることが望ましい。
- ▲全体に駐輪場のスペースが少ない。
- ▲駐輪場に屋根がないので雨天には使用できないので困る。山口大学には公共交通機関の整備がされていないので、雨天でも学生の多くは自転車を利用している状況にある。
 - ★駐輪場に屋根を付ける。
- ▲経済学部3階の奥、廊下の端に危ない柵がある。（写真5）
 - ・子ども一人すり抜けられそうな柵で、大人もひよいと越えられそうである。柵に改良の余地がある。
- ▲学生食堂「きらら」は広くてテーブルも多数設置されているが、時間帯によって混雑する。（写真6-1）
 - ★外のスペースに屋根をつけて、机と椅子を設置したらどうか。（写真6-2）
- ▲大学内が暑い。
 - ・風が通るような窓の位置、建物の構造、網戸の設置を考えてほしい。
- ▲トイレの床がタイル式だと、溝に水が溜まって汚い印象がある。
 - ★溝のない形に。また色も白色など清潔な色にする。

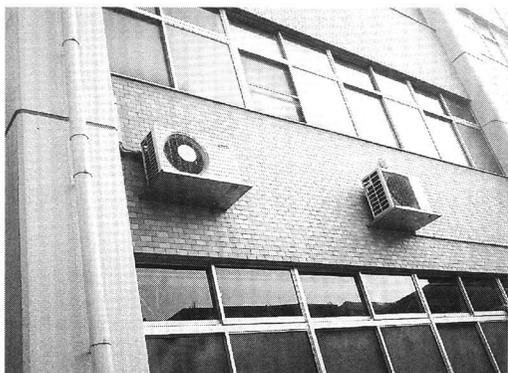


写真4 落ちそうな室外機。

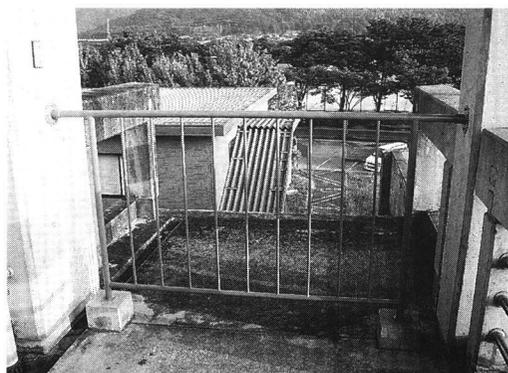


写真5 この奥は絶壁であり、危険である。



写真6-1

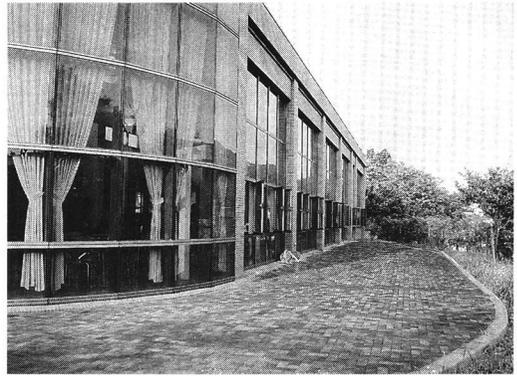


写真6-2

これだけ机と椅子があっても昼は混む。 → この外のスペースを活用できないか？

3. 新しくなった正門について

- 車・自転車・歩行者の道が分かれていて安全に通行できるようになった。
- ▲歩行者側としては、信号を渡らないといけなくて場所が増えて少し面倒になった。
- 見た目が綺麗になった。
 - ・来客が気持ちよく入校することができる。
- ▲石の壁が高く積まれていて閉鎖的に思える。
 - ・学生の意見としては、低くして他に予算を回せないのか、という率直な感想を持っている。
- ▲石の「山口大学」の表札は2つもいない。(写真15-1、15-2)
 - ・一つ分の制作にかかった経費を別のところに有益に使用してほしい。
- ★予算の有効的な使い方を考える。
- ★作る前に教職員、学生にも意見を募る機会を設ける。



写真15-1

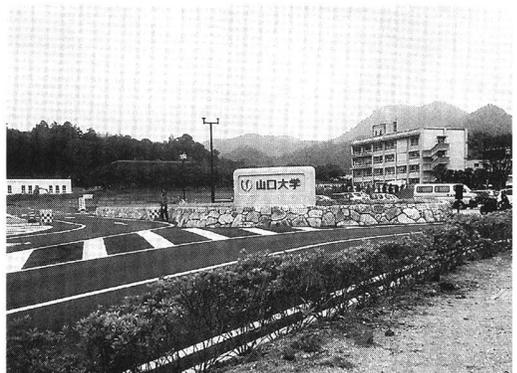


写真15-2

2つもある表札。見えやすい位置に1つ置けばよかったのではないだろうか。

4. 設備

4-1 防犯

- ドアの前にセキュリティ・システムがある。
 - ・夜7時くらいになると、ほとんどの窓とドアが警備員に施錠されるが、このシステムが設置されているドアは、暗証番号を知っている人なら入ることができる。夜大学に用がある場合にとっても便利である。しかもオートロック式なので安心である。
- 図書館にセキュリティ・システムがある。
 - ・大切な本を盗難から守れる。
- ▲女子更衣室の窓。(写真7)
 - ・のぞきの心配がある。
 - ★排水管や窓の位置の移動。

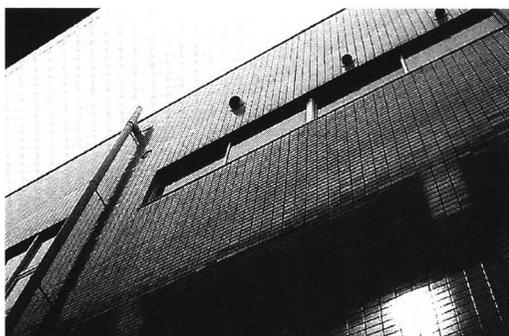


写真7 のぞける足場のある更衣室。

4-2 バリアフリー

- 点字ブロックがある。
 - ・目の不自由な人への配慮がされている。
- ▲スロープが建物の玄関や、限られた場所にしかない。
 - ・車椅子で生活する人にはまだまだこの数では少ない。
 - ★入り口にはすべて設置する。
 - 段差を減らすこと、エスカレーターを設置することも大切である。
- ▲障害者用トイレが1階にしかない。
 - ・2階以上に研究室がある人には不便である。
 - ★各棟・各階に設置。
- ▲教育学部の音楽棟にある障害者用のピアノ練習室が、物置になっている。
 - ・障害者用練習室はこの一部屋だけなのに、使い物にならない。
 - ★物は物置に入れる。

4-3 その他の設備

- 農学部やトイレの人を感知して点灯する照明が設置されている。
 - ・省エネになる。是非全学部にも導入を望む。
- 公衆電話がある。
 - ・すっかり見かけなくなったが、携帯電話を忘れたときに役立っている。
- AEDがある。

- ・これがあれば助かる人の数が増える。設置されていることに感謝する。
- 災害時に無料で飲料が出てくる自動販売機がある。
- 学生証のICチップ導入により、図書館の出入りが簡便になった。
- 正門付近の大きな時計。
 - ・急いでいるとき、この位置にあると助かる。
- その他、設置されていて便利な設備がある。
 - ・エレベーター、コピー機と裁断機、学割発行機、傘立てなど。
- 大学会館と、教育学部の展示スペース。
 - ・大学会館の展示ロビーが落ち着いた雰囲気なので、展示がしやすい。
 - ・芸術を大切にする大学の気風を感じる。
- 図書館や情報ラウンジのパソコン。
 - ・パソコンを持っていない人には助かる。
- 人文学部のラウンジ、東屋周辺では無線LANが使用できる。
 - ・ちょっと調べ物がある時にわざわざ図書館まで行く必要がない。
 - ・大学のいろいろなところで使えるようにしてほしい。
- ▲無線LANの電波が弱く、繋がりにくい場合もある。
- 火災報知機がある。
- スプリンクラーが設置されている。
- トイレに音姫がついているので助かる。
- ▲トイレが臭い。
 - ★芳香剤を置く。
- ▲石鹸のついていないトイレがある。
 - ・どのトイレにも石鹸をつけてほしい。また、補充もしっかりしてほしい。
(この点についてはインフルエンザ流行とともに改善された。)
- ▲共通1、2番教室のエアコンは効き目が弱い。
- ★もっときくエアコンを設置するか、台数を増やす。
- ▲喫煙スペースに問題がある。
 - (喫煙者) 喫煙スペースが少ない。マナー違反が増えている。
 - ★いっそのこと全面禁煙にするか、スペースを増やす。
 - (非喫煙者) 喫煙スペースが、階段の踊り場や入り口付近など、人のよく通るところに設置されていて意味がない。分煙しているとはいえない。
 - ★全面禁煙化。
 - ★せめて密室の喫煙室をつくる。

5. 広報・掲示

- 禁煙を促しているポスター。
 - ・このポスターによって、喫煙は良くないことだと訴えかけることができている。
 - ・いやみがなく、どこかユーモラスである。
- バス停の絵。(※工事前)
 - ・山口市の名所の絵が描かれていて、見た目に楽しいバス停となっている。

- 学生食堂「ポーノ」のメニューの掲示がわかりやすい。
- 各学部の建物に案内図があってわかりやすい。
- 山口大学の生協のHPにQRコードでアクセスできるので便利である。
- デジタル山口大学の存在。
 - ・山口大学の学生の活動が紹介されている。ただ、もう少し知名度がほしい。
- ▲看板や階番号の文字がはげているのかかわらず、そのまま放置されている（写真8）
 - ★小さなことでも気づいた人が連絡をする。
- ▲効力のない駐輪禁止のポールや看板。
 - ・自転車が堂々と駐輪禁止の看板の前に駐輪されている。
 - ★壊れたカメラを設置し、「監視カメラ作動中」と張り紙をする。
 - ★具体的な処罰を明示する。
 - ★地面から動かないオレンジポールを自転車が置けないように設置する。
- ▲山口大学埋蔵文化資料館の存在があまり知られていない
 - ・沢山の貴重な資料が展示されているのに勿体ない。
 - ★建物の入り口付近に、展示内容を知らせる大きな看板やポスターを置く。



写真8 文字の読めない看板がある。

6. 大学の気風、システム

- 地産地消。
 - ・学生食堂「ポーノ」では、山口の農産物をしっかり使っている。
- 図書館の閉館時間。
 - ・21時45分と遅くまで開いており、しっかりと読書や学習ができる。
- 警備員の方々が、夕方のラッシュ時に、正門付近の交差点まで出て、交通整備をしている。
 - ・歩行者や自転車、車が安全に通行できる。

●大学の歴史を大切にしている（写真9）

- ・経済学部の前身である山口高等商業学校の校長のブロンズ像の台座と校長のレリーフがある。
- ・改装しても変わらない経済学部の表札がある。新しいものを作ることも大切だが、古いものを大切にし、歴史を思い返すことも必要である。
- ・経済学部の傍には記念樹と、以前のキャンパスにあったと思われるたくさんの記念樹の石碑がある。記念樹も卒業記念や一期生の同窓会記念など、思い出がたくさんつまったものである。

●緑のカーテンの試み。（写真10）

- ・緑のカーテンは日差しを防ぎ、熱も下げる。エコロジークな暑さ対策である。

●教員の伝言板。（写真11）

- ・旅行のお誘いやゼミの連絡などが書かれている。先生とコミュニケーションを取るのに有効な手段の一つである。

●売店の店員さんが優しい。（写真12）

- ・いつも笑顔で挨拶をしてくれる。
- ・日常のちょっとした相談（封筒の書き方など）にもものってくれる。

▲売店の営業時間が短い。

▲売店が土日は閉まっている。

- ・土日に大学へ行く学生にとって不便である。

▲連絡事項を大学の掲示板でしか確認できない。

- ・大学に行けないこともあるので、ネット上でも連絡事項を確認できるようにしてほしい。
- ・重要なことは、メールでも連絡を回してほしい。
- ★学務の仕事が増えるので、学務の人数を増やす。



写真9 歴史のある表札。



写真10 緑のカーテンには綺麗な花も咲く。

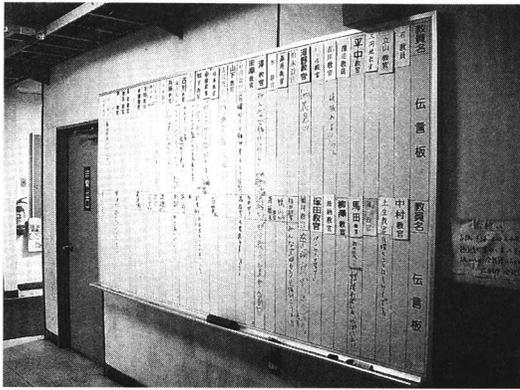


写真11 教員の伝言が書かれた伝言板。



写真12 いつも笑顔の売店の店員さん。

7. 学生のマナー

▲駐輪マナーが悪い。

- ・駐輪場があるにも関わらず、外れたところに駐輪してある。
- ・駐輪禁止の看板が無視されている。(写真13)
- ・入り口や通路付近に置かれると迷惑である。(写真13)
- ・点字ブロックの上にも駐輪してある。点字ブロックの意味がない。
- ・「全員がマナーを破っているから大丈夫」という最悪の状態になっている。
 - ★駐輪場を増やす。
 - ★ロープを張ったり、棒を置いたりする。
 - ★学生に呼びかける。

▲ゴミのポイ捨て。

- ・敷地内のあちらこちらで、ゴミのポイ捨てが見られる。
 - ★ゴミのポイ捨てをやめるように警告するポスターを掲示する。
 - ★ポイ捨ての多い場所にゴミ箱を多数設置する。

▲空き缶・空き瓶・ペットボトルの始末の仕方が悪い。(写真14)

- ・回収箱に入れられたものを見ると、きちんと分別をしていないのがわかる。
 - ★分別例を描いたものや、分別を呼びかけるポスターを貼る。
 - ★きちんと分別されたものが入った回収箱を置く。
 - ★回収箱を人目につく場所に設置する。

▲深夜にダンスの練習をしている人たちの音楽が騒音になっている。

- ・騒音が勉学の妨げになる。
 - ★活動時間を区切る。
 - ★試験(大学の期末試験・教員採用試験・国家試験など)の前は控える。

▲大学の正門の歩行者用信号を守らない学生が多い

- ・青になるまでが長いからではないか。



写真13 看板の効果が無い。

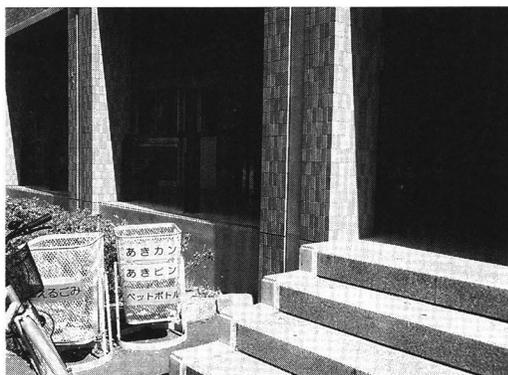


写真14 右奥に回収箱があるにもかかわらず左奥にも回収箱が設置されている。

まとめ

以上は、学生生活を中心とした様々な視点から、山口大学の環境について述べてきたが、その中でも設計の問題が多いことが明らかになった。その改善案の一つとしてバリアフリーを積極的に進めていく必要がある。そして何より、キャンパスの生活者である教職員と学生のマナーの向上が大切であると感じられた。

本報告は教育学部美術教育の4年生を対象にしたデザインⅣの授業の一部である。デザインの学習は構成の学習を基礎にした問題解決学習を題材としているが、受講生である学生にとっては日常的な大学キャンパスでの問題発見、問題解決、提案のデザインプロセスが教材の一つとして適切であると考えた。そのために現状の把握、問題の所在の検討、改善案の創出を行い、時間と設備の制限により生活マナーの改善のためのポスター制作をデザイン作品とした。この報告書はその前段階である。

受講生はこの調査と考察を通して、自分たちが過ごしている空間である山口大学の良い面や悪い面について、いくつかの項目に分けて再度考えることができた。また、学生は山口大学で生活する人がより快適に生活できるような工夫を発見することによって、改めて山口大学に愛着を持ったようである。その一方で、デザイン学習によって得られた方法論を身に付け、日常的な環境を見直すことで、まだ改良の余地が残されていることにも気がついたようである。

この報告書は山口大学吉田キャンパスのごく限られた対象を調査している。受講生7名の少人数であり、時間的制限もあり、部分的な報告内容となった。この小さな調査が今後の快適なキャンパスライフの形成の一つになれば幸いである。

注

- 1) 福田隆真:山口大学通りの景観調査について, 山口大学教育学部研究論叢第3部, 第44巻, pp. 89-101 1994.

福田隆真:一の坂川の景観と視覚的要素について, 山口大学教育学部研究論叢第3部第45巻, pp. 25-37 1995.

2) 2009年度前期デザインⅣ受講生は以下である。美術教育選修4年、倉重佳奈子、坂田裕香里、服部奈央、藤田知美、松井茉理奈、山田洗一郎、横尾亜紀。